

アルゴス・エム・スリー

Software Introduction



不正操作・操作ミスから大切なデータを守りましょう。



Argus M3 (アルゴス・エム・スリー) とは

Windows上で操作した内容(アプリケーションの実行、起動、キーボード操作、ホームページ訪問履歴、ファイルの修正/削除等)を記録するソフトウェアです。

ギリシャ神話に登場する、全てを見渡すことができる巨人”アルゴス”から、このソフトウェアの名前をつけました。

ソフトウェアの開発背景

現在ほぼ全てに近い企業でIT化・システム化が進んでおり、多数のクライアントパソコンが活用されています。

しかし企業のIT化が進むにつれて、二つの大きな問題が浮き彫りになってきました。それは、

セキュリティの甘さとパソコンの私用

です。ここで言うセキュリティの甘さとは、パソコンの不正操作による社内情報の漏洩や、パソコンの操作ミスによるデータの損失のことです。

通常パソコンの中には様々なかたちで社内の情報が保存されていますが、技術の進んだ現在では、その情報を簡単に抜き出すことができます。そのような状況を防止するには、パソコンの使用方法やパスワードの管理について徹底すれば可能です。

しかし、悪意を持った人がパスワードをのぞき見(盗み)、そのパソコンを使ってしまうと、もう防ぐことができません。しかも、そのデータが抜き出されたこと自体の証拠が残らないことが多いのです。

また、人間が操作をする以上、うっかりとしたミスは起こりえます。その時に問題なのは、ミスした本人はどのような操作をしてミスをしたかを覚えていない

場合があるのです。どのように操作をしたのかが分かれば原因もすぐにわかるのですが、そうでなければ原因を突き止めるのに時間がかかってしまいます。

もうひとつのパソコンの私用については言うまでもありませんが、会社のパソコンを使ってこっそりとインターネットで遊んだり、ゲームをするなど、本来の仕事以外の目的でパソコンを使う場合のことです。もちろんこのようなことが発生していない会社もありますが、残念なことに私事に使われている場合もあります。これではせっかく導入したパソコンの生産性が減ってしまいます。

このような状態を改善するために、(株)メディポート、(株)アレフ・ビジネス・システムズ、(株)タクトの異業種三社でソフトウェアの開発を始めました。

その結果誕生したのがArgus M3です。

基本機能

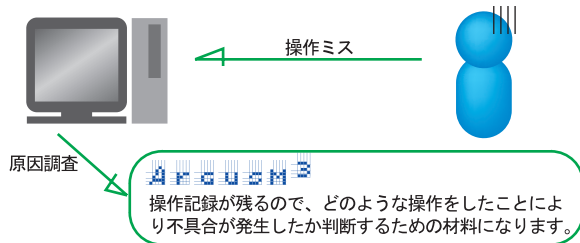
- ・アプリケーションの起動/終了を記録
- ・キーボードの入力内容を記録
- ・クリックされたボタンのキャプションを記録
- ・ファイルの改変履歴を記録(修正/削除)
- ・ホームページ訪問履歴を記録(※IE5以上)
- ・使用禁止アプリケーションの設定
- ・データベースに対応(MSDE・MS SQL Server 7/2000)

以上が基本的な機能です。この基本機能だけでも、多くの機能があり、セキュリティの向上は可能なのですが、このソフトウェアはそれぞれのニーズに合わせた柔軟なカスタマイズも可能となっております。

次ページで、その活用事例をご紹介します。

基本機能での活用事例

■システム障害時の原因調査資料として



うっかりとしたミスは誰にでも起こりうるものです。ミスを起こさないようにすることも大切ですが、万が一発生してしまった場合に、どのような操作をしたことによりそのミスが発生したか使用者は覚えていないこともよくあります。この場合ArgusM3が入っていれば、原因調査のお手伝いすることが可能です。

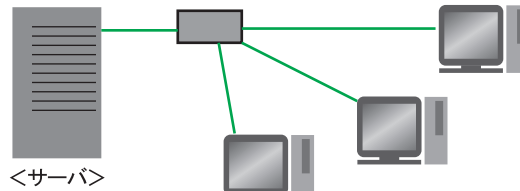
■不正操作の抑制・私用の抑制



ArgusM3がインストールされているということを社員や派遣社員など、パソコンを使用する人に告知しておけば、意図的な不正操作を抑制することができます。仕事にこっそりとゲームなどで遊んでしまうような場合にも対応可能です。

また、パソコン内に使わせたくないアプリケーションが入っている場合に、そのアプリケーションを起動禁止に設定する事も可能です。逆に使用可能なアプリケーションを制限するように設定する事も可能です。

■Windowsのログオン/ログオフでタイムカード機能



ネットワークが整備されている環境でしたら、タイムカードソフトウェア「ArgoTime」と組み合わせることにより、Windowsのログオン/ログオフで自動的に出退勤の登録をすることが可能です。もちろんパソコンでの作業記録もチェックする事も出来ます。

[ArgoTime詳細へリンク](#)

カスタマイズで可能な機能例

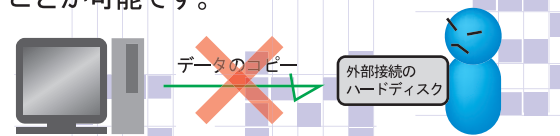
■カスタマイズ1：派遣社員の稼働率調査

どのくらい効率よく作業をしているか気になる派遣社員。ArgusM3では、どのアプリケーションを誰がどれだけの時間起動(作業)しているかを集計することが可能です。

その他、パート・アルバイト・外注先など

■カスタマイズ2：社内データの持ち出し規制

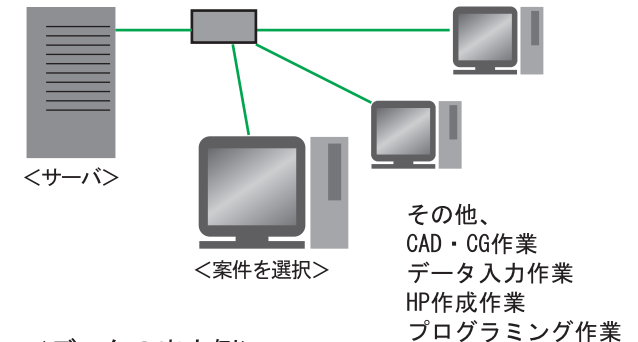
いろいろな面で便利になった現在では、社内のデータを簡単に外部に持ち出すことが可能です。たとえば、USB接続によるハードディスクを接続してごっそりとファイルをコピーすることも可能ですが、このような場合、ArgusM3をカスタマイズすることにより、コピーをできないようにすることが可能です。



■カスタマイズ3：作業の工数取得

時間単価の設計・開発などを請け負っている場合は、ArgusM3の集計機能をカスタマイズすることにより、どの案件でどのアプリケーションをどれだけの時間使用したかがわかります。

データの収集はArgusM3が自動的に行いますのでユーザーはWindowsの起動時にどの案件の作業をするか入力するだけで作業時間の収集が可能です。



<データの出力例>

案件名：1001 顧客A様ホームページ作成
ユーザー名：Yamada

ソフトウェア名	稼働時間
Illustrator	4時間30分25秒
Photoshop	2時間40分30秒
Word	32分02秒
Excel	10分12秒

実作業時間：5時間24分02秒
延べ作業時間：7時間53分09秒

ユーザー名：Tanaka

ソフトウェア名	稼働時間
Illustrator	2時間30分25秒

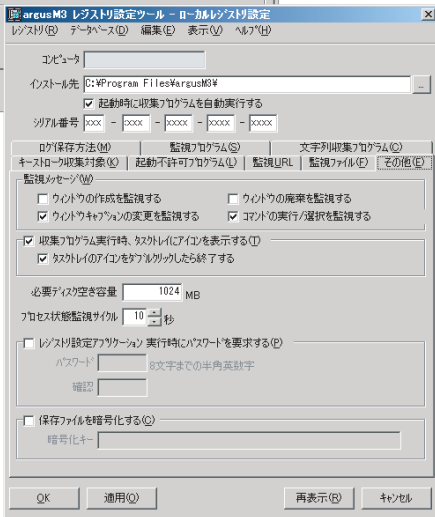
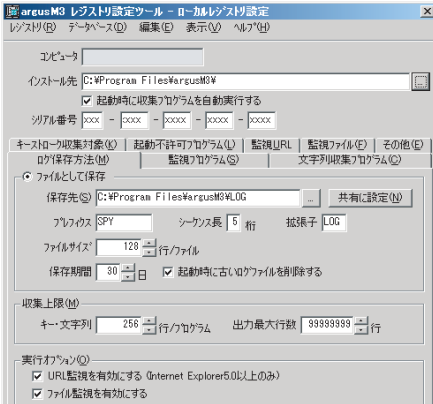
製品詳細

ArgusM3の標準パッケージに含まれている機能をご紹介します。

■レジストリ設定ツール

このツールでArgusM3の機能設定をします。キー入力やURL履歴、ファイルの監視対象などを設定します。

＜ログ保存方法設定画面＞

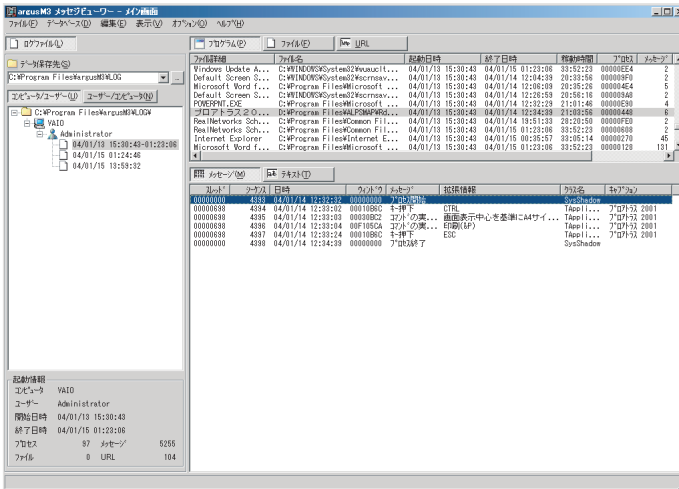


＜その他設定画面＞

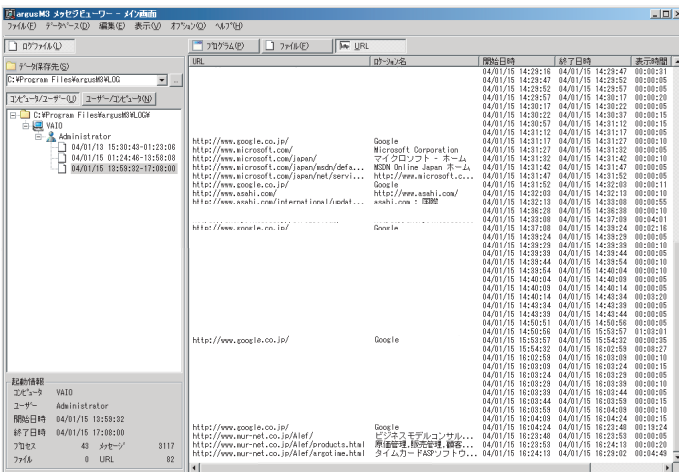
■メッセージビューワ

記録されたデータを表示するためのツールです。どのようなアプリケーションでどのような操作をしたか、簡単に分かります。

＜地図ソフトにて印刷の操作を実行＞

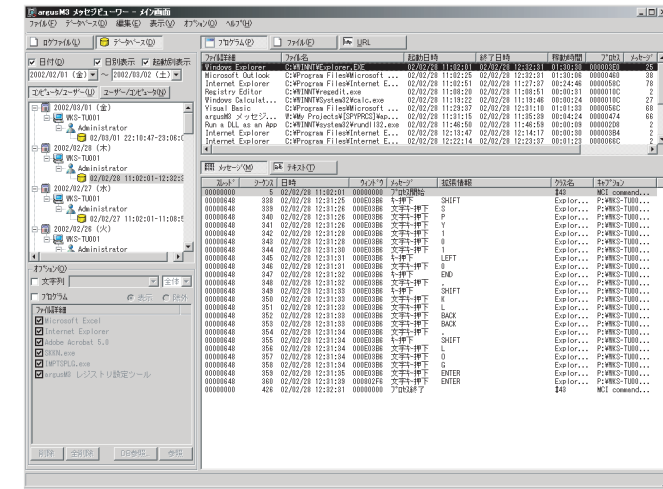


＜ホームページ訪問履歴 (URLを一部加工してあります)＞

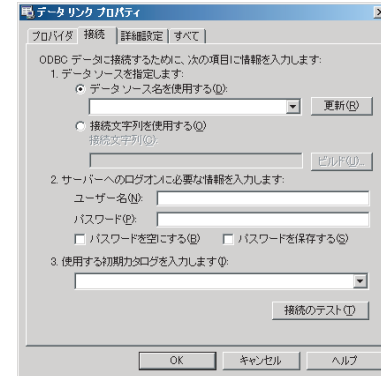


ログをデータベースに保存すると、検索などの便利な機能が可能となります。

＜データベースに接続して表示＞



＜データベース接続設定＞



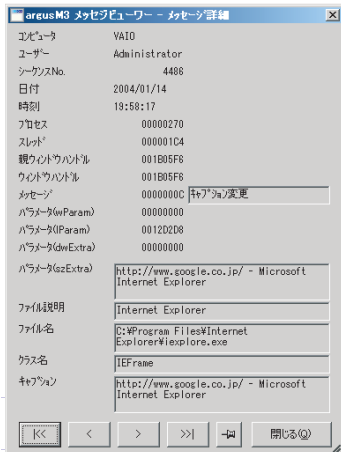
データの参照先はローカルPC/MSDE (標準) SQL Server7/2000 (オプション)に対応しています。保存ログファイルはテキスト形式ですが、暗号化して保存することもできます。(ビューアーの方でデコード処理されます。)

<文字の入力内容>



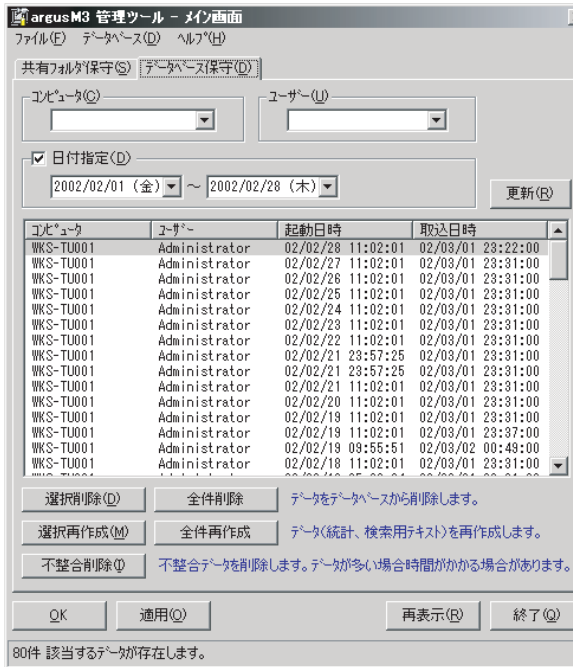
入力された文字を表示することができます。
オプションの設定により、SHIFTキーなどの表示／非表示が切り替えられます。

<メッセージ詳細画面>



■管理ツール

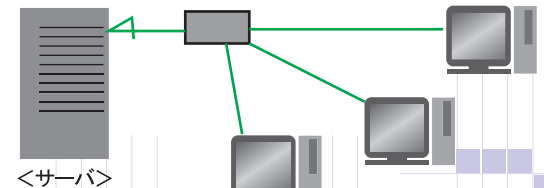
ログファイル・共有フォルダ・データベースのメンテナンスを実行します。



■ログデータ自動取り込みの実行

各クライアントに設定された共有ディレクトリを巡回し、ログファイルをデータベースに取り込みます。

サーバが自動巡回してデータを取り込む



ArgusM3をネットワークで使用する場合は、サーバがクライアントのArgusM3データフォルダを自動巡回して取り込みます。